

AI 支援講演会

第15回 新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センターセミナー



日時

2026年10月1日(木) 17:00～



場所

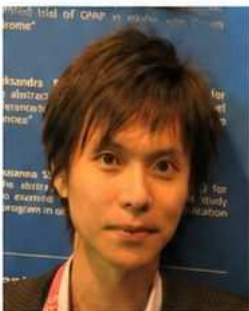
医学部実習棟 4階 P4講義室

LECTURE 1

AI × 医学研究

AIは医学研究を
変革できるか？— 名古屋大学における臨床現場、研究、
教育へのAI導入：得られた知見と課題

Can AI Transform Medical Research?

— Implementing AI in Clinical Practice, Research,
and Education at Nagoya University:
Lessons Learned and Challenges

演者

古川 大記 先生

名古屋大学大学院医学系研究科
総合医学専攻 AI推進室
名古屋大学医学部附属病院
メディカルITセンター 副センター長
理化学研究所画像情報処理研究チーム

生成AIをはじめとするAI技術は、医学研究の進め方を大きく変える可能性を有している。一方で、AIツールを導入するだけで研究力や生産性が向上するわけではなく、臨床・研究の現場にどのように組み込み、研究者自身が使いこなせる環境を構築するかが重要である。名古屋大学では、これまでの医療AI人材育成を基盤として、AI・データサイエンス教育、研究課題を掘り起こすドアノック活動、生成AI・大規模言語モデル(LLM)を活用した研究支援などを進めている。演者自身も、間質性肺炎患者を中心とした臨床AIの開発と社会実装、病院の臨床データを研究に活用するためのデータ基盤整備に取り組んでいる。本講演では、これらの取り組みと事例を紹介するとともに、AI人材の不足、医学と情報科学をつなぐ難しさ、データ利用やシステム構築、研究成果を社会実装につなげる際の障壁について、うまくいかなかった経験も含めて共有する。AIを医学研究・教育・臨床に定着させるために、今後どのような人材と研究環境が必要なのかを考えたい。【古川 大記】

LECTURE 2

がん微小環境 × Drug Delivery

薬物送達の上を目指した
がん関連線維芽細胞(CAF)の
多様性への介入Targeting cancer-associated fibroblast heterogeneity
to enhance drug delivery

演者

榎本 篤 先生

名古屋大学医学系研究科
腫瘍病理学 教授

私達はがん間質に増生するがん関連線維芽細胞(CAF)の多様性に着目した研究を行っており、CAFにはがんを促進する悪玉CAFとがんを抑制する善玉CAFの両者が存在することを示してきた。薬理学的にCAFの形質を変化させると、抗がん剤や抗体医薬の薬物送達が増進することを見出した。本講演では上記に関する基礎研究と現在行われている臨床応用についてご紹介したい。【榎本 篤】

履修対象科目

博士課程選択必修科目：基礎医学系(D3)、臨床腫瘍学総論(D2)

博士課程選択科目：細胞生物学Ⅰ(D6)、老化Ⅰ(D19)、理工医学のための生物材料科学
理工医学のための生物材料科学及び放射線(D109)、抗体やワクチンによる感染症の予防・診断・治療(D003)医学専攻(修士課程)選択科目：腫瘍の発生・増殖とその制御(M23)、
理工医学のための生物材料科学及び放射線の基礎(M37)

を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。

連絡先

浦野 健
島根大学 研究・学術情報本部
新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター
TEL 0853-20-2127
E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp